旅

遠野市（岩手県）　神や座敷わらしがいる地

柳田国男 ゆかりの地巡り

早池峯神社の「神門」をくぐると、厳かな雰囲気の境内が広がる

今年は民俗学者の柳田国男が生誕して150年の節目だ。11月半ば、民俗学の愛好者らが参加して「遠野物語」ゆかりの地を巡るツアーが行われ、記者も参加した。

北の早池峰山、東の六角牛山、北西の石上山に囲まれた盆地に遠野の街は形成された。車窓には牧場やホップ畑が広がる一方、石碑もぽつぽつ点在していた。

「遠野では悪いものは村境から入って来ると言われます。それを防ぐため神様の名前を刻んだ石碑が置かれるのです」。遠野市観光協会のスタッフでガイドを務める阿部和美さん(55)が明快に解説してくれた。柳田も遠野物語の中で「路傍に石塔の多きこと諸国その比を知らず」と書いた。

遠野三山には3人の女神が住むとされる。女神たちが分かれたという「神遣神社」を経由し、バスは三山の中でも「最も美しき」早池峰山に鎮座する早池峯神社へ。神門をくぐると、古来修験者が訪れた境内には静謐な空気が流れていた。

境内にある高台に「山ノ神」と刻まれた碑がある。「遠野は硬い花崗岩で形成され、昔から地震に強い場所と言われています。東日本大震災の時も遠野は沿岸地域への支援の拠点となりました」

そう説明するのは富川岳さん(38)だ。東京の広告会社勤務を経て2016年に移住。伝統芸能のシシ踊りに関する本を執筆するなど作家活動も行う。

同神社では4月、座敷わらしの「祈願祭」も行われる。伝承は意外に新しい。1983年、新潟から訪れた男性が車で帰る途中、橋の上で「ドスン」という音に気づいた。新潟に戻ると当時苦しかった商売が不思議と軌道に乗り、地元の神職に「座敷わらしのおかげだ」と言われたという。

座敷わらしが「乗った」とされる橋を渡ったバスは、山口集落に到着した。遠野物語の元となる話を柳田に聞かせた青年・佐々木喜善の生家がある地区では、沿岸から海産物を運ぶ「駄賃付け」が山で見た不思議な出来事を武勇伝として語った。幼少の喜善も、そうした話を聞いて育ったのだろう。

デンデラ野は集落から意外と近く、民家が見える位置にある

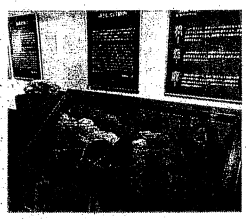
集落の外れに広がる丘陵地「デンデラ野」は遠野物語に「昔は六十を超えたる老人はすべてこの連台野（デンデラ野）へ追ひ遣るの習ありき」とある。ただ、民家が意外に近く、「楢山節考」などの姥捨て伝説と印象が異なる。

遠野市史編さん委員長の大橋進さん(82)は「昼は里に出て畑仕事をする。デンデラ野は家族に迷惑をかけず、来世の準備をする場所ではないかという人もいます」と話す。老いを悲観せず、楽しむ場所という解釈も生まれている。

ツアーは日本地名研究所発行の雑誌「地名と風土」編集長の小田富英さん(76)らが企画。地名研究に関心がある参加者のため、今回は来内、附馬牛など、柳田がアイヌ語地名との関係を指摘した場所を中心に選んだという。「遠野来訪は90回目。そんな自分もまだまだ訪れたことがない場所が多い」。この地の奥深さは、柳田の時代から変わらないのだろう。

暮らしや信仰 熊と共に

今年の漢字に「熊」が選ばれたが、岩手県の被害は深刻だ。遠野でもカッパが多くいたと伝わる観光名所の「カッパ淵」は記者が来訪時、立ち入り禁止となっていた。今回のツアーでも約30人の参加者が熊よけの鈴を身につけるなどの対策を徹底していた。

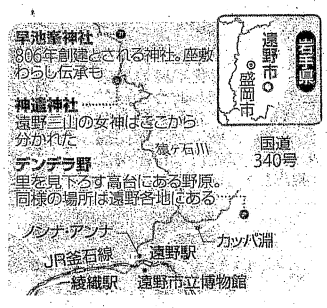


熊を描いた絵馬などが並ぶ展示（遠野市立博物館で）

その一方で、遠野の人々は古来、毛皮や肉をもたらす熊を重宝してきた。近代医学が普及する前は、胆嚢を乾燥させた「熊胆」が万能薬とされていたこともあり、熊は「山の神」の化身とされている。

遠野市立博物館で開催中の「遠野物語と動物―異界・信仰・語り―」は遠野物語に登場する動物に関連する展示だ。馬、猿、狐などの絵馬や像から、遠野の生活や信仰に動物が深く関わっていたことが伝わる。来年1月12日まで。

文と写真　文化部　多可政史



●あし　ＪＲ東京駅から東北新幹線で新花巻駅まで約３時間。釜石線で遠野駅まで約1時間。早池峯神社は遠野駅から車で約30分。遠野市立博物館は徒歩約10分。

●問い合わせ　遠野市観光協会＝☎0198・62・1333。遠野市立博物館＝☎0198・62・2340。

※ 本場の味伝える窯焼きピザ

味

バスツアーの参加者に薦められた店「ピッツェリア&バル　ノンナ・アンナ」は本場イタリアの窯焼きのピザ＝写真＝が人気だ。店主の石田久男さん(63)は元遠野市職員。今年3月まで姉妹都市提携を結んでいたイタリア・サレルノ市に約10か月間滞在した経験があり、イタリア語も堪能だ。店名は滞在時にお世話になったサレルノ副市長の妻・アンナさんに敬意を込めて付けたもの。「イタリアの家庭の味を大切に伝えたい」

※ 捕まえたら賞金 カッパ捕獲許可証

賞

カッパ淵を訪れることはできなかったが、遠野市観光協会で「カッパ捕獲許可証」を購入した＝写真＝。「カッパを捕まえたら賞金1000万円」。そんなキャッチフレーズで協会が発行し、裏に「頭の皿を傷つけず、皿の中の水をこぼさないで捕まえること」など「捕獲７ヶ条」を記す。有効期限１年のノーマルバージョン(220円)、顔写真入り現地限定バージョン（940円）がある。